

2023年度 事業報告書

特定非営利活動法人ピッピ・親子サポートネット

I. 事業の成果

2024年1月1日に発生した能登半島地震から5ヶ月余りが経過しました。インフラ復旧に時間を要し、今なお多くの方が厳しい環境での暮らしを余儀なくされており、半島という地形、しかも全国でも有数の高齢地域で発生した災害からの復興の難しさが浮き彫りになっています。

3月末、法人内事業所スタッフが災害ボランティアとして派遣要請を受けた現場も高齢者介護の現場でした。まさに、少子高齢社会が進む日本社会において、私たちはどう支え合って暮らしていくのか、問われています。

高齢社会を支える重要な社会保障制度である介護保険は、制度改定の度に給付抑制を繰り返し、人材不足は一層深刻化しています。障害福祉制度にも同様の課題があります。法人内の各事業所で厳しい情勢が続きますが、マネージメント力を高め、改めて事業の継続に向けて知恵を出し合い議論を進めます。

同時に、「お互い様」の顔の見える関係をつくるというまちづくりの原点に立ち帰り、「場」をひらく取り組みも進めています。

昨年10月からは、「ピッピ・夕暮れ食堂」を始動し、保育園を起点として、多様なバックグラウンドを持つ人たちとつながり、協働することで新たな価値が生まれ始めています。

分断や対立、無関心こそが、弱い立場にある人々をより困難な状況に追いやってしまいます。私たちは、未来を担う若い世代とともに、福祉現場や地域社会で起きている事や政策・制度、政治にも関心を寄せ、声をあげ、行動する存在でありたいと思います。

1.参加型組織の運営

・事業の理念や目的を共有し、メンバーシップ力を高めることを目的として、W.Co、理事メンバーによるリーダー研修を実施しました。今後も共育・研修の機会を創出していく必要性を確認しました。

2024年1月30日 参加者13人

2.スキルアップ、相談支援

・つながる保育の実践について学ぶ講演会や、保育スタッフやインターンシップの学生が参加しフィールドワークを実施しました。地域おやこ園をめざして、「場」を生かし・ひろげる具体的な取り組みにつなげることができました。

5/27総会記念講演 齋藤祐善氏(学校法人正和学園 社会福祉法人芳美会理事長)

「社会の変化とつながる保育、保育・教育現場からの未来づくり」

・困難を抱えるケースや気になるケースについて、相談支援事業担当者とともにケース検討を実施(開催10回)し、より良い支援に繋げました。

・一時預かりをテーマとした北広島市議会の視察受け入れに際して、親子サポート連絡会で一時預かりの現状と課題をまとめ議員団に提言しました。

・昨年から取り組んできたここはっぴいととりとるピッピの共育研修を継続して実施し、保育内容や

運営体制の検討・見直しにも繋がりました。

3.場を開く

- ・ピッピ保育園と協働して「ピッピ保育園地域への感謝プログラム推進プロジェクト」を設置し、インターンシップの学生(4人)も参加し、保育園を地域にひらく取り組みを推進しました。
- ・法人と各事業所で取り組んだフードドライブには年間1986キロの食品が寄贈されました
4年目を迎えたフードシェア*いちがおは、のべ472家族1541人が約4トンの食品をシェアし青葉・つづきフードシェアネットワークとの連携でボランティアはのべ158人と参加がひろがりました。
- ・11月より保育所等を起点とした食支援事業の助成を受けピッピ・夕暮れ食堂@くらしてらすがスタート。在園児や卒園児、家族や近隣の利用が広がり(のべ316人)、保育園の機能を再評価することとなりました。
- ・神奈川W.Co協会と連携し、ピッピみんなの保育園、となりのいえでの就労体験実習生を受け入れました。みんなの保育園の実習生はアルバイト契約に進みました。様々な立場の人や様々な世代と出会い働き合う経験を、マネジメントに生かしていく視点が求められます。

4.ネットワークを広げる

- ・能登半島地震による甚大な被害が報じられる中、全国小規模保育協議会の理事団体として、緊急支援を呼びかけ、法人および各W.Coで支援活動に取り組みました。W.Co socioとW.Co la casaでは、スタッフ(各1人)を被災地支援ボランティアとして送り出しました。
 - ・困難女性のステップハウス「共同の家プアン」の呼びかけに応え、法人およびW.Coで課題を共有し事業継続のための寄付を実行しました。
- 当事者が声をあげアクションする重要性を再確認するとともに、これらの困難を社会課題として捉えて、全W.Coが主体的に支援活動に取り組みました。

5.現場から社会を変える

- ・青葉ユニット、横浜ユニット連絡会に参加し、継続した政策提案に取り組みました。2023年より乳幼児一時預かり事業の補助体系は大きく見直されました。移動支援や計画相談支援など、多くの課題を抱える事業についても、W.Co la casaメンバーを中心に制度への学びを深め改善に向けた提案活動に取り組みました。
- ・全国小規模保育協議会における「誰でも通園制度」をめぐる議論では、あらためて「働いていても、いなくても預かる」一時保育の重要性を提起しました。理事団体として、能登半島地震支援活動の窓口を担いました。横浜チャプターでは、横浜市との円卓会議、政策提案に加えて、市会各会派へのロビー活動を実施し、幅広い意見交換を行い新たな繋がりを作ることができました。

II. 事業の内容

(1) 特定非営利活動に係る事業

- ①子ども子育て支援法及び児童福祉法に基づく認可保育園事業、放課後児童健全育成事業及び子育て支援事業

ア 認可保育園事業

- ・内 容 保育及び子育て支援事業(一時保育、園開放、育児講座等)

- ・日 時 通年
- ・場 所 ピッピ保育園及びピッピみんなの保育園(分園)
- ・支出額 145,017,734円
- ・受益対象者 認可保育園、一時保育及び子育て支援事業利用者
通常保育: 46人
一時保育: のべ 863人

イ 小規模保育事業

- ・内 容 保育事業
- ・日 時 通年
- ・場 所 りとるピッピ及び大場りとるピッピ
- ・支出額 59,664,136円
- ・受益対象者 通常保育利用者及び一時保育利用者
通常保育: 18人
一時保育: のべ 605人

ウ 子育て支援事業－1

- ・内 容 親と子のつどいの広場事業及び乳幼児一時預かり事業
- ・日 時 通年
- ・場 所 ピッピおやこの広場はっぴい及びここはっぴい
- ・支出額 24,815,888円
- ・受益対象者 利用者 のべ 3,359人

子育て支援事業－2

- ・内 容 ピッピヘルパーケア 産前産後・子育て支援ヘルパー派遣事業
- ・日 時 通年
- ・支出額 1,622,594円
- ・受益対象者 利用者 のべ 608人

エ 放課後児童健全育成事業

- ・内 容 小学生の放課後の健全育成
- ・日 時 通年
- ・場 所 ピッピ学童保育となりのいえ
- ・支出額 15,873,925円
- ・受益対象者 利用者 のべ 4,067人

②児童福祉法に基づく障害児通所支援事業、指定障害児相談支援事業

ア 障害児通所支援事業

- ・内 容 放課後等デイサービス事業
- ・日 時 通年
- ・場 所 ピッピデイサービスとなりのいえ

- ・支出額 27,845,971円
- ・受益対象者 利用者 のべ 2,824人

イ 指定障害児相談支援事業及び指定特定相談支援事業

- ・内 容 障害児・者計画相談事業
- ・日 時 通年
- ・支出額 4,079,216 円
- ・受益対象者 利用者 のべ 200 人

③介護保険法に基づく居宅介護支援事業、介護予防サービス事業、地域密着型 サービス事業、第1号介護予防支援事業、及びその他 介護保険外の在宅支援事業

ア デイサービスさくら

- ・内 容 地域密着型通所介護事業
- ・日 時 通年
- ・場 所 デイサービスさくら
- ・支出額 8,610,979 円
- ・受益対象者 利用者 のべ 987 人

イ 居宅介護支援大場町みんなのいえ

- ・内 容 居宅介護支援事業
- ・日 時 通年
- ・場 所 大場町みんなのいえ
- ・支出額 3,167,399 円
- ・受益対象者 利用者 のべ 323人

④障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく障害福祉サービス事業、地域生活支援事業、及びその他の派遣事業
移動支援事業

- ・内 容 移動介護及び 通学通所支援
- ・日 時 通年
- ・場 所 ピッピ移動支援となりのいえ
- ・支出額 4,844,175円
- ・受益対象者 のべ 825人

⑤食や居場所づくり等を通して地域の助け合い・つながり合いを推進する事業

- ・内 容 居場所・フードパントリー・夕暮れ食堂 事業
- ・日 時 通年
- ・場 所 ピッピおやこルーム・くらしてらす・大場町みんなのいえ
- ・支出額 4,921,147円
- ・受益対象者 利用者 のべ 2,016人

